**意思伝達が苦手な障がい者のアセスメントと評価　第1回「自己決定・意思決定支援へのアセスメント」01190801wtj**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| シート＃ | シートタイトル | 小見出し | 要点　「」はテロップ |
| P1左下 | アセスメントとは何か |  | 「私たちの支援というのは「利用者の自己決定を支えていく・支援をしていく」「自立支援を支えていく」という目的がある。そのためにアセスメンがあるというところをおさえていく必要がある」。 |
| ②利用者を取り巻く環境・状況を考慮し、 | 特に、利用者を取り巻く環境は、「支援の視野の広さによってどんどん拡大していくもの」である。 |
| ③利用者の潜在的能力、可能性といった長所・強さを大切にしながら | どうしても私たちはできないところに目が行きがちですが、長所を大切にすることがポイントになる。 |
| ④利用者の生活課題や困難を把握し、分析・検討することで、 | 「アセスメントは、分析・検討を行っていくと、実証性の高いもの」になる。 |
| ⑤支援計画を立て、⑥実際的な支援を展開していくための課題分析 | そしてそれ（④）を基にして、支援計画を立てて、実践的な支援を展開するための課題を設ける。 |
| ⑦アセスメントは一度で終了せず、支援を実践しながら⑧記録し、それに基づいて⑨モニタリングし、 | その課題を実践的な展開の中で、うまくいったか、いかなかったかを含めてアセスメント・評価をし、そのことを記録し、それに基づいて、また観察や分析、支援が行われ、モニタリングが行われる。 |
| ⑩再アセスメントして、支援計画を軌道修正する | そして、再アセスメントで、もう一度、本人の状況や夢を再確認して、支援計画を軌道修正していく。 |
| ⑪循環的プロセス | こういった「循環的なプロセスを繰り返していくということがとても大事」になる。 |
|  | 「アセスメントは支援全体の中で常に行われている、あるいは意識していかなければいけない支援実践者の視点」であると思っていただくとよい。 |
| P1右下 | 基本的なアセスメント内容 | 【本人の状態を総合的に分析】 | 私たちが最初に行うのは、本人の状態を総合的に分析するアセスメントを行う。これが基本的なアセスメントになるかと思う。 |
| ●本人の強み・環境の強み | 何より必要なのは、その中（上記アセスメント内容）から、本人の強みや本人を取り巻く環境がもっている力をきちんと拾い上げていく。 |
| ●利用できる社会資源や関係機関 | そして利用できる社会資源や関係機関、あるいは可能性があるものも含めて考えていく必要がある。 |
| 【課題分析と優先順位】 | こうした「ベースをおさえておきながら、ニーズを抽出する必要がある」。それが課題分析と優先順位である。 |
| ●利用者の初期状態や基本的ニーズの把握から課題を整理～●課題の整理にあたっては、優先順位を設定 | 利用者の初期状態や基本的ニーズが把握できたら、自立支援に向かって支援課題を整理していかなくてはいけない。課題となることはたくさん出てくるが、特に大事なことは、課題整理にあたっては、優先順位をつけていくことが必要になる。支援者側も時間や人の制約がある。「「効果的に何を行っていくのか？」「重要なものは何か？」「緊急性のあるものは何か？」を課題として挙げていく」。 |
| P2左上 | アセスメントから始まる | ◆支援のアイディアの前にアセスメントがある | アセスメントを行うにあたって、一番気をつけなければいけないことは、支援のアイディアの前にアセスメントがあるということ。「「支援にはアセスメントありき」このことをきちんと頭に置く必要がある」。私たちはどうしてもアセスメントをなおざりにして、支援のアイディアを先に出してしまう。しかしこれでは根拠がない。結局それが原因で迷走することがある。そういう意味では、「アセスメントはきちんと時間を取って行うことがとても大事」になってくる。 |
| ◆アセスメントで支援方法の枠組みを検討する | アセスメントで支援の方法の枠組みをまず検討する。手あたり次第やっていっても、やはり迷走してしまう。「アセスメントで方向性を定める」。ある意味では、「アセスメントは、支援の羅針盤になる」と思う。 |
| ◆支援実践をサポートするのがアセスメント | 支援実践を行っていくうえで、齟齬をきたすことや、うまくいかないことがでる。その時はまたアセスメントに戻る。「（支援実践がうまくいかない時は）アセスメントに戻る。「見落としていることはないのか？」「課題の根拠づけはちゃんとできていたのかどうか？」を考えておくことが必要」になる。 |
| ◆アセスメントで得られる情報の多くは利用者からである | どうしても私たちはデータから見るが、「目の前にいる利用者の生活と行動の中から、観察を通してアセスメントすることが一番必要」になってくる。 |
| ◆アセスメントによってチーム協働のための共通理解を得る | 「アセスメントすることによって、支援の方向性がチームの中で共有される。あるいは、支援を実践していくプロセスの中でその都度アセスメントをすることによって、もう一度利用者を見る視点を共通化させる、という役割を持つ」ことになる。 |
| ◆アセスメントは支援実践過程で仮説検証を循環的に実施する | （赤い円の図の意味）アセスメントは、1回ではなく、アセスメントを行い、支援実践を行い、評価を行う、というサイクルが繰り返し支援実践で行われる。 |
| ◆アセスメントによって根拠のある支援を行う | （青い円の図意味）上記の赤い図は、情報を収集し、その事象・情報がどういう意味を持つのか考え、支援の中で利用者の行動に原因や帰結としてどのように結びつくのか、その分析結果に基づき支援方法を選択し、その支援結果を検証し、再び支援目的と照らし合わせて評価をする、ＰＤＣＡのサイクルが動いていることがとても大事になる。つまり、「アセスメントは、「分析をし、検証をする」ことが大事。 |
| P2右上 | 自己決定と意思決定支援 | 意思決定 | 注目してほしいのは、makingと進行形であること。他者や環境との相互作用の中で形成させる先の見通しをもった「想い」「意思」「感情」などを一緒に作り上げていくことが、意思決定支援の醍醐味になるが、その時に「行動を「観察・介入・分析・検証」をしていくことがまさしくアセスメントであり、支援そのもの」ということになる。 |
| P2左下 | 「意思決定と支援することのあいだ」 | 自分では判断できない決められない人、意思決定できる | 私たちは利用者に意思決定をしていただいて、自分で考えて選択をしていただくわけだが、判断能力や環境の問題、選択肢がないということも含めて、様々な状況の中で、意思決定をしていただくのは難しいと感じる場面が多いと思う。しかしその時に、意思決定ができないと思い込んでしまうと、そこから先には進まない。「自分では判断できない決められない人」、ととらえるのではなく、「意思決定できる」とみていく。その時に、「あれもこれもできないと思っているその中に、実はできることがたくさんある。そこに着目していくことがとても大事になる。それこそがアセスメントである」。 |
| どんなに障がいのある・なし…●日常生活の中に埋め込まれている本人の…●表情や感情、行動に関する記録などの… | 重い障がいがあっても必ず考えを持ち、意思・意向や感情・気持ちがあることを前提に、日常生活の中に埋め込まれてしまった本人の意思のありどころに関心を寄せて、「本人は何を伝えようとしているのか？何が意向なのか？どういう気持ちでいるのか？」を表情や感情、行動に関する記録としてまとめ、情報を積み上げて、今までの生活史、人間関係などから得られた情報とあわせもって、その根拠を明確にしていくことが、障がい者の意思のありどころを探すことにおいて、非常に大切になる。その意味では、アセスメントはフェースシートやアセスメント表に書いてある記述だけではなく、「目の前にいる利用者と共に支援を一緒にやっていく中でアセスメントをしていくことを大切にしていただきたい」と思う。 |
| P2右下 | 意思決定支援におけるアセスメント | ◆意思決定の材料　選択肢が質量とも少ない | 選択肢を抽出する、探すことがとても大事。あえて選択肢を増やしていって、利用者の反応を見ていく。 |
| ◆意思伝達の手段　本人に合う手段が開発されていない | 会話ができない、コミュニケーションができないのは、私とあなたの了解性がとれるツールがないということ。 |
| ◆意思表明の機会　質量とも少ない、本人の状況と合わない | 本人が意思表明をしないのではなく、「意思表明をする土台を私たちは信頼関係の中で作ってきたのか？失敗を共有する環境があったのか？そして本当に本人たちの言葉を聞いているのか？をもう1回行動支援の中で確認していく」こともアセスメントと言える。 |
| ◆意向実現の機会　実感できる体験、経験が少ない | 実感できる体験、経験を一緒にしてきたのか、ぜひそのことも考えていただきたいと思う。 |
| ◆支援者側のスキル　コミュニケーション・環境・材料が不十分 | 支援者側からコミュニケーションや環境、材料の提供がきちんとできていたのか。そうしたことを検討するのもアセスメントである。私たちはどうしても利用者のできないことに着目するが、果たして私たちはこうした意思決定支援における支援の材料をきちんと提供し、適正な支援をしてきたか、もう一度考えていただきたい。 |
| コミュニケーション　意思を読み取るスキル・機会 | コミュニケーション、意思を読み取るスキル・機会、こうしたものを私たちはもう一度再確認していきたいと思う。 |